

事務事業 No./名称	■サービス部門 市民-15 技能振興事業 □支援部門									
主管課	産業振興課(市民活動課)	関連課								
分野名	勤労者福祉									
目標 (目標値)	技能者表彰や技能職団体への助成を通して技能振興、技能者の労働・生活環境の向上を図る。									
人口等のデータ	データ区分	23年度	22年度	21年度	備考 ・各年4月1日 (住民基本台帳)					
	人口	177,204人	177,161人	176,669人						
	世帯数	79,217世帯	78,812世帯	78,131世帯						
運営資源状況	事業の対象者数									
	決算値(千円)	494千円	500千円	843千円						
	(国・県)									
	(負担金等)									
	(一般財源)	494千円	500千円	843千円						
	人員配置数	0.7人	0.7人	0.7人						
	人件費(千円)	6,033千円	6,033千円	6,228千円						
協働のパートナー										
事務事業運営経費	総事業費(千円)	6,527千円	6,533千円	7,071千円						
	市民1人当りの経費(円)	37円	37円	40円						
	対象者1人当りの経費(円)									
ベンチマーク (県内外自治体や民間団体との比較値)	団体名⇒	鎌倉市	川崎市	横浜市	藤沢市	厚木市				
	技連協組合数	45組合	63組合	44組合	36組合	23組合				
	技連協組合員数	1,400人	20,000人	47,598人	1,314人	445人				
	市補助金額	285千円	1,700千円	2,540千円	435千円	400千円				
指標	評価	年度	21年度	22年度	23年度	24年度	最終年度(年度)			
技能者表彰数	△	目標値	50人	50人	50人	50人				
		実績値	37人	43人	40人					
◎目標を達成 ○目標に向かって前進 △達成率10%未満										

評価のポイント

評価の視点	①効率性	事業費や人件費に削減余地はないか。	②妥当性	事業の目的と政策・施策体系の目標とが整合しているか。法的な根拠や公的関与の妥当性はあるか。
	③有効性	事業の成果が得られているか。事業を休止・廃止した場合影響があるか。	④公平性	受益機会が偏っていないか。受益者負担は公平・公正か。

中事業に含まれる小事業の評価(⇒個別事業の概要は裏面)

小事業名	H23決算値	評価	適切=○、要改善=△(評価の視点を参照)	⇒ 方向性	A:充実・拡大 B:現状継続 C:改善・見直し D:統合縮小 E:廃止・休止
技能振興事業	494千円	①効率性 ○ ②妥当性 ○ ③有効性 ○ ④公平性 ○		⇒ □A ■B □C □D □E	
	事業の概要	技能者表彰の実施、技能祭の実施、鎌倉市技能職団体連絡協議会を支援する。			
		①効率性 ②妥当性 ③有効性 ④公平性		⇒ □A □B □C □D □E	
	事業の概要				
		①効率性 ②妥当性 ③有効性 ④公平性		⇒ □A □B □C □D □E	
	事業の概要				
		①効率性 ②妥当性 ③有効性 ④公平性		⇒ □A □B □C □D □E	
	事業の概要				

事務事業の課題及び取組状況

H23年度の課題	青年表彰受賞者は該当者がいたものの、若年技能者減少の傾向は変わっていない。
課題解決のための取組	昨年度に引き続き式典内容に市民の関心が集まるような工夫をしたほか、技能祭を初めて腰越地区で開催し、市内各所で技能への関心が高まるようにした。
未解決の課題	青年表彰受賞者は該当者がいたものの、若年技能者減少の傾向は変わっていない。

中事業の評価と今後の方向性

中事業の評価	適切=○ 要改善=△ (評価の視点を参照)	①効率性 ○ ②妥当性 ○ ③有効性 ○ ④公平性 ○	今後の方向性	A:充実・拡大 B:現状継続 C:改善・見直し D:統合縮小 E:廃止・休止	※□事業完了
				市が直接技能振興を図る機会は、技能者表彰が中心となるが、鎌倉市技能職団体連絡協議会との共催事業や支援の中で、次世代を中心に技能啓発を図っていく。	↓ B 課長等名 産業振興課課長代理 濱本 正行

